

## 【様式1】

## 令和5年度 授業改善推進プラン

## 東久留米市立第六小学校 第3学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の定着や、正しく書く力について個人差が大きい。また、語彙や表現に使える言葉の種類等についても個人差が大きい。</li> <li>文章を書くことに抵抗があり、自分の考えを書くことに課題の見られる児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミニテストや家庭学習、朝学習で繰り返し学習し定着を図る。</li> <li>单元ごとに新しい語彙について、国語辞典を使って意味を調べ、使える語彙を増やし、定着を図る。 →漢字のミニテスト、学期末の漢字テストで見取る。 (目標値：平均75%以上)</li> <li>自分の考えや感想等を文で書く時間を設定し、段落や句読点等基本の書き方を指導する。</li> <li>必要な児童には、例文や手本を提示したり、作文メモカードを活用したりする。 →200字程度の作文を正しい表記で書くことができる。 (目標値：75%以上の児童) →「始め、中、終わり」の構成や段落を意識して文章を書ける。(目標値：75%以上の児童)</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的な計算の理解、正確さに個人差が大きい。</li> <li>数量感覚を養う機会や経験に個人差が見られ、量の単位や換算に課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>週1回朝学習で、Eライブラリを活用し、基礎計算を繰り返し練習する。また、放課後タイム等を活用し、個別指導を行う。 →ワークテストの計算問題や、Eライブラリ確認テストから見取る。(目標値：正答率の平均75%以上)</li> <li>具体物や半具体物、またICTを活用して、操作したり視覚的に捉えたりすることができる教材などを多く取り入れ数量感覚を養う。図に表して考える機会を多く設ける。 →ワークテストやワークシート等で、数量関係や作図の技能を確認する。(目標値：正しく答えられる児童70%以上)</li> </ul>

理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な自然や科学事象に対する興味・関心や生活経験・知識に個人差が大きい。</li> <li>科学的な用語やしくみが十分身に付いていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実物に触れて観察、体験をし、考えを交流する活動を取り入れる。</li> <li>画像や動画等、ICTも活用して、目で見て確かめ、理解を深める。 →実験・観察前後のノートや観察カードで評価する。(目標値：知識の理解や問題解決への関心が高まった児童75%以上)</li> <li>イラストや図を使って、しくみや現象について整理して示し、学習した理科の用語を使って予想や結果、考えを書くよう指導する。 →知識及び技能について確認するワークテストやワークシートから見取る。(目標値：正しく解答できる児童75%以上)</li> </ul>
特別の教科 道徳	<ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろな考え方に触れ、自分事としてより深く考えられるようにする必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発問を工夫したり、ペアやグループでの話し合いを取り入れたりすることで、考えの違いやそれぞれの良さをに触れる機会をつくる。 →振り返りの時間に、友達のと比べて自分の考えを書ける。(目標値：80%以上の児童)</li> <li>役割演技や、授業の振り返りで自分の生活に立ち戻って考える時間を設定し、自分事として考えられるようにする。 →各授業ごとの自己評価や振り返りで、実践意欲を高めたり、考えを変容したりできる。(目標値：70%以上の児童)</li> </ul>